

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	運動学習支援教室スマイルパレット日向北町		
○保護者評価実施期間	2026年 2月26日		2026年 3月 8日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	10	(回答者数) 9
○従業者評価実施期間	2026年 2月26日		2026年 3月 8日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	3	(回答者数) 3
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 3月9日～17日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	フランチャイズの本社である大分のスマイルパレットに倣い、ただの預かり型(保護者の息抜き・休息等)の支援ではなく、子どもたちの生活訓練や機能向上を行っている。具体的には、毎日の宿題以外に、学習支援と運動療育(日課)、SSTや活動等を行っている。何か困ったことがあれば、大分のスマイルパレットの職員に相談ができるのも強みである。	運動と学習支援の一環である日課は、保育士・学校教諭・作業療法士・理学療法士・言語聴覚士・社会福祉士などの専門家が丸となって、子どもたちの「生きる力を育む」を目標に考えたプログラムである。具体的には、日々質の高い学習支援と脳機能改善・コミュニケーション能力向上を目的とした運動療育を一人ひとりに合わせた個別のメニューで行っている。	プログラムを考案したのは様々な専門家になるが、スマイルパレット日向北町の専門家は保育士のみとなる。ただ日々の療育で疑問に思うことや行き詰ることがあれば、大分のスマイルパレットにいる職員に習ったり、児童が通っている学校や病院の担当者に尋ねたりしている。このようにして各々が専門的スキルを上げては、日々の療育に活かしている。
2	トーフクの社員として、子どもたちや保護者さまに対して常に「感謝」と「祈り」を忘れずに、まずは「今日も来てくれてありがとう」の気持ちで子どもたちを迎え入れようとしている。学校で怒られることも多く、自己肯定感が低い子どもたちがまずは自ら進んでスマイルパレットに通いたいと思えるように、子どもたちをありのまま受け止めることを第一としている。	スマイルパレットの特色である運動と学習も大切であるが、まずは子どもたちの社会的欲求や承認欲求を満たせるように、スマイルパレットが子どもたちの居場所の一つになれるように、日々職員間で話し合いをし、まずは子どもたちのいいところや頑張りに注目しようとしている。まずは子どもたちの存在を認めた上で、学習支援や運動療育に取り組むようにしている。	子どもたちが楽しんで通うことができるようになったら、次は困った時に頼ってもらえるような関係性づくりを目指している。具体的には子どもたちと日々楽しく過ごすだけでなく、何か困り事があるように見える時にはこちらから尋ねたり、自ら話してくれたことに対しては「話してくれてありがとう」と伝えると共に、何かしらすぐに行動に移すようにする。
3	HUG(保護者アプリ)を導入しているので、基本ペーパーレスで、保護者さまにとって負担なく、簡単にやり取りを行うことができるように支援している。また用紙と違い、利用がない日でも、すぐに一斉にお知らせをすることができたり、ご両親だけでなく、おじいさまやおばあさま等にも同じ情報や日々の様子の写真などを共有することもできるので安心である。	日々のサービス提供記録は、文章だけではなく、写真も送るようにしている。またHPやInstagramを使って、できるだけ多くの配信をするようにしている。(ただ日々のサービス提供記録は個別なものと、HPやInstagramは見ると見ない人に分かれるので、今後は必ず全員が見るHUGの一斉配信を一番に使用して、平等な情報発信に努めていく。)	まだHUGのアプリをフル活用できていないので、次年度からは日々の日課や活動、行事等の子どもたちの様子をHUGで一斉配信すると共に、避難訓練や防災訓練、感染症対策や事故防止対策等の職員が行ったことも(子どもたちの安心安全につながるようなことも)細目に伝えるようにしては、保護者さまに安心して預けてもらえるように努める。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	一番保護者さまから「はい」以外が「職員数の配置数の適正」についてであった。今年度は職員が3人と最低人員の時期が多かったため、児童数が定員を満たしてからは、送迎の時間帯を中心に職員数の配置数に対する心配の声が挙がった。	求人が来ないことや職員の急な体調不良については仕方がないが、そういった場合にも事業所として安定して営業ができるように、+αとして児童がいる時間帯(半日)だけでも勤務できるアルバイト職員を確保できれば良かった。	児童がいる時間帯だけのアルバイトの求人も募集していることも強調して求人を出すようになった。また相談支援事業所や関係機関にもその旨を伝えるようにしている。職員の充実が子どもたちへの支援や療育の充実につながるようにも感じる。
2	一昨年の11月に開所したばかりなのもあり、地域との交流がほとんどなかった。また親子交流行事(きょうだい交流を含む)もなく、保護者会も1回のみ開催で、平日の日中ということもあってか、2人しか参加がなかった。	開所1年目ということもあり、まずは目の前の子どもたちへの支援や療育について取り組んでいたのもあって、親子交流や地域交流までする余裕がなかった。どちらも子どもたちにとって重要なことという意識を持って、今後は積極的に行っていくようにする。	4月からは2事業所目が開所し、職員数も倍になるので、仕事も役割分担をし、早くから交流行事担当の職員を決め、事前にアンケートを取る等して、保護者さまの要望を聞き取った上で、準備を進めては、実りの多い行事にする。回数も増やす。
3	希望すればできる保護者向けの支援も周知が徹底しておらず、「いいえ」や「わからない」と回答する保護者さまもいた。また児童の安全面に関することも実施はしているが、保護者さま全員への周知はできていなかった。	日々個別にサービス提供記録は配信しているが、個別ということもあり、全体行事に対する詳細な報告が不足していた。また日々のサービス提供記録は、個別支援計画に基づく支援や療育よりも、その日にあった出来事を記載する方が多かった。	今後はHUGの一斉配信を活用しては、こどもの全体行事を配信することにより、参加していないご家庭にも全体行事を伝えることができ、職員の研修等を配信することにより、子どもたちを預ける上での安心にもつながるような情報提供ができるようにもする。